

新型インフルエンザで国内の死者、既に感染拡大の兆し

新型インフルエンザをめぐる国内の動き

- 4月 25日 メキシコの豚インフルエンザ流行で、政府が情報連絡室を設置
- 28日 世界保健機関（WHO）のフェーズ4へ引き上げで、政府が新型インフルエンザ対策本部を設置、米国などから到着した航空機内での検疫を開始
- 5月 9日 カナダから帰国した大阪府の高校生ら3人の感染を確認
- 16日 神戸市の高校生8人の国内感染を確認、政府が「国内発生早期」に格上げ
- 22日 政府が新型インフル対策の運用指針を策定。全国一律だった対策を緩和
- 6月 11日 WHOが警戒レベルを最高水準のフェーズ6へ引き上げ
- 19日 運用指針を改定。自宅療養を原則化し、空港の「水際対策」を廃止
- 7月 2日 患者から治療薬タミフルに耐性を示すウイルスを検出
- 22日 感染の男児がインフルエンザ脳症を発症
- 8月 15日 感染していた沖縄県の男性患者（57）が死亡（国内で初）
- 18日 感染していた神戸市の男性患者（77）が死亡（2例目）

新型インフルで国内初の死者＝沖縄の57歳男性－腎臓と心臓に疾患

沖縄県は15日、新型インフルエンザに感染した同県宜野湾市の男性（57）が同日朝、死亡したと発表しました。国内で新型インフルエンザの感染者が死

亡したのは初めてのケースです。男性は感染した場合に重症化する危険性が指摘されている腎臓と心臓に疾患がありました。

舛添要一厚生労働相は同日記者会見し「現時点で新型インフルのウイルスの病原性が変化したとは考えていない」と言明しました。

厚生労働省は死亡例の発生を受け、感染の拡大防止に向け啓発をさらに強化することを決めました。中嶋建介・同省感染症情報管理室長は同日会見し、「今後もこういった事実が発生することは予想されるが、なるべく抑えたい」と談話を発表しました。

県によると、男性の死因は肺炎を併発したことによる敗血症。慢性腎不全のため透析を受けており、過去に心筋梗塞（こうそく）を起こしたこともあったとのことです。渡航歴はなく、周囲にインフルエンザの症状がある人もおらず、県は感染源や広がりについて不明としています。

男性は9日午後からのどの痛みなど体調不良を訴え、10日に人工透析を受けた際、37度台の熱があったため簡易検査を受けましたが、結果は陰性でした。12日に熱が39度まで上昇し、再度の簡易検査では陽性となり、タミフルの投与を受けました。同日夜に沖縄市内の病院に入院しましたが、14日から容体が悪化し、15日午前6時54分に死亡しました。

その後、遺伝子検査（PCR）で新型インフルへの感染が確認され、県は心臓疾患や慢性腎不全で免疫力が弱っていたところに感染したとみています。

一方、新型インフルエンザ対策の国の運用指針は、基礎疾患を持つ人にPCRを優先的に実施するよう定めていますが、男性のPCRが行われ、感染が確認されたのは死亡後でした。

冷静な行動呼び掛け＝新型インフルで首相

麻生太郎首相は15日、新型インフルエンザによる国内初の死者が沖縄県で確認されたことを受け、「国や地方自治体が発する情報をよく聞いて、警戒を怠らない一方、冷静な行動をお願いする」と国民に呼び掛ける談話を発表しました。

談話は、「政府は秋冬に向けて、医療体制の整備や新型インフルエンザワクチンの接種体制の整備に鋭意取り組んでいる。状況の変化を注視しつつ、対策に当たっていく」などとしています。

「ウイルス変化とは考えていない」－新型インフル、初の死者で＝厚労相

舛添要一厚生労働相は15日、沖縄県で新型インフルエンザに感染した男性が死亡したことを受け、那覇空港で記者会見し、「現時点で新型インフルのウイルスの病原性が変化したとは考えていない」と説明しました。その上で、「現在でも感染は拡大しており、手洗いやうがいの徹底や、人ごみへの不要不急の外出を控えるなど、基本的な感染対策を十分取ってもらいたい」と国民に呼び掛けを行いました。

舛添厚労相は、他県でも呼吸困難や重篤になった例があるとして、「沖縄だけが危険というイメージを持たないでほしい」と話しました。

ウイルスの病原性が変化したとは考えていない理由として、男性の周囲で新型インフルエンザに感染し重篤化した人がいない状況を挙げました。

亡くなった男性が心筋梗塞（こうそく）や慢性腎不全を患っていたことについては「何が本当の死因だったか特定しないといけない」と述べ、男性の検体は国立感染症研究所に送り、調査するとのことでした。

舛添厚労相は、沖縄県入りした直後に詳細な連絡を受け、会見を行ったとしています。

インフルエンザ、流行目前＝新型、夏でも感染拡大か

インフルエンザの患者がこの夏急増しており、全国的に流行入り目前となっていることが15日までに、国立感染症研究所（感染研）のまとめで分かりました。ほとんどが今春登場した新型とみられ、季節性インフルエンザに比べて感染力が強く、夏にも感染が広がる恐れがあることが確認された格好となりました。中でも沖縄県では感染が拡大しており、慢性腎不全を患っていた男性（57）が同日、新型インフルエンザに感染し死亡しました。

神戸市でも死者が発生し、厚生省は、死亡した患者はいずれも感染経路は不明で、「腎臓と心臓に疾患」と「糖尿病による腎不全で人工透析を受けていた状況」で、いずれの患者にも持病があったことから、「感染者の増加に伴って、持病がある人を中心に重症化したり亡くなったりするケースも増える」としています。

感染研によると、7月27日から8月2日までの週に約4,800カ所の定点医療機関から報告されたインフルエンザ患者は2,655人で、1カ所あたり0.56人。4週連続で増え続けており、今後1カ所あたり1.0人を超えると流行入りとみなされます（8月3日から9日までの感染状況は1カ所あたり0.99人）。

沖縄県は11.79人と、流行の本格化が警戒されるレベルに達し、「医療機関には年末年始並みに患者が殺到している。検査で判明する95%以上が新型」と同県の糸数公結核感染症班班長は言っています。

一般にインフルエンザウイルスは高温や湿気に弱く、夏でも患者は発生するものの、大規模な流行になることはなく、沖縄では夏に流行入りした年もあったが、今回は大阪府内でも定点当たりの報告数が10人を超えた地域があるなど、全国的に流行入りする恐れがあるのが特徴となっています。

感染研のまとめでは患者は10代が約4割、5～9歳が約2割を占め、児童生徒が中心。沖縄に次いで患者が多い大阪府の担当者によると、学校が休みでも部活やキャンプなど課外活動での集団感染がみられ、「夏の間に着ち着くことは期待できず、学校が始まった時が心配だ」と話しています。

東京都の担当者も「学校が休みなのである程度抑えられている。今は若い人に集中しているが、社会の中で広がるようになると重症者も出てくる」と懸念しています。また医療機関の準備は整えられつつありますが、「急激に増えると対応できないこともあり得る」とし、感染予防など一般向けの普及啓発に努めたいとしています。

新型インフルエンザ、世界の死者は 1,462 人 =WHO集計

世界保健機関（WHO）によると、全世界で新型インフルエンザによる死者は6日時点で累計1,462人に上っています。感染者が確認されたのは170カ国・地域で、累計感染者数は少なくとも17万7,457人となっています。

海外での新型インフル感染状況について

◎中国本土の感染、2,729 人に-新型インフル

中国衛生省によると、中国本土での新型インフルエンザの感染者は14日から17日にかけて新たに192人が確認され、計2,729人となりました。

新たな感染者のうち、本土での感染は125人で、海外での感染は67人。感染者全体のうち、治癒したのは2,396人で、新型インフルエンザによる死亡例はありません。

北京市では17日だけで15人が新たに確認され、計674人となっています。

◎新型インフルで死亡、累計 64 人に増加-感染者は既に 8 万人か =マレーシア

マレーシア国営ベルナマ通信によると、保健省は17日、国内の新型インフルエンザ感染者の死者数が同日午前9時時点で累計64人に増加したと発表しました。新たに生後7カ月の乳児と74歳の高齢者の死亡が確認されました。また、新型インフルエンザ感染者のうち33人が病院の集中治療室（ICU）で治療を受けています。

一方、16日付のマレーシア紙ニュー・ストレーツ・タイムズなどによると、世界保健機関（WHO）は、マレーシアの新型インフルエンザ感染者数が5月以降

の累計で8万人に上ると推計していることをマレーシアのリョウ・ティオンライ保健相が明らかにしました。

同相は対策として、「新型インフルエンザ患者の治療のため、すべての民間病院に抗インフルエンザ薬を供給している」と説明。同薬タミフルを処方すべき患者などに関するガイドラインを発行したとしています。また、十分なタミフル確保に問題が生じていると民間病院から批判の声が上がっていることについては、タミフルの供給業者と早急に話し合い、価格を引き下げて関係先に行き渡るようにすると述べています。

また同相は、新型インフルエンザの拡大で病院が混雑し、いくつかの病院では診察待ち時間が最大で4時間に上っていることについて、保健省として待ち時間を減らすことは困難だと語っています。「混雑を緩和するため、病院の外来や診療所に保健省の職員を配置している」と述べるにとどまっています。

一方、ムヒディン副首相兼教育相は15日、学校にマスクと消毒剤を配布するために300万リンギの予算を確保したことに関して、在庫が不十分なため、いくつかの学校では配備が遅れる可能性があるとして説明しました。

◎新型インフルで初の死者(56歳男性、タイ旅行後) =韓国

韓国保健福祉家族省は15日、今月初めにタイを旅行し、新型インフルエンザに感染した56歳の男性が同日午前、併発した肺炎と敗血症のため死亡したと発表しました。新型インフルエンザによる死者は韓国で初めてで、同省は東南アジアを訪れる人に手洗いなどの予防を呼び掛けています。

男性は1日から同僚とタイを訪れ、5日に帰国し、9日に発熱や呼吸困難などのため入院。当初は細菌性肺炎と診断されましたが、症状が改善せず12日になって新型インフルエンザの疑いからタミフルの投薬を始めました。しかし、症状は悪化し続け、15日に最終的に新型インフルエンザと確認されました。

男性の家族と一緒に旅行した同僚に新型インフルエンザ感染の症状は出ていません。

韓国では15日午前0時現在、2,032人の感染が確認されています。

韓国保健福祉家族省は16日、新型インフルエンザに感染した63歳の女性が同日、急性呼吸窮迫症候群で死亡したと発表しました。新型インフルエンザによる韓国での死者は、15日に56歳の男性が死亡したのに続き2人目。女性は最近、海外に渡航しておらず、感染経路は不明。韓国の新型インフルエンザ感染者数は、16日午前0時現在で2,089人です。

◎新型インフルで2人目の死者＝台湾

台湾衛生署（衛生省）は15日、新型インフルエンザで6歳の女児が死亡したと発表しました。新型インフルエンザによる死者は台湾で2人目。

女児は7月24日から38度以上の熱を出し、通院していましたが、肺炎の症状が表れるなど、重症化し死亡しました。台湾では重症化した例として死者2人を含む計25人が確認されています。

◎新型インフルエンザで11人目の死亡者＝シンガポール

シンガポール保健省によると、新型インフルエンザを患っていた中華系男性患者（80）が14日、肺炎のため死亡しました。シンガポールの新型インフルエンザ患者の死亡は11人となりました。

男性にはパーキンソン病などの持病があり、発熱やせきなどの症状が出始めてから1週間後の6日にシンガポール国立大病院（NUH）の救急病棟に入院していました。

◎香港の感染者、7,000人を超える＝新型インフル

香港の新型インフルエンザ感染者数が累計で7,000人を超えました。衛生当局が16日発表したところによると、感染者は同日、246人増えて、計7,701人となっています。入院中の感染者は58人。このうち10人は症状が重いとのこと。

◎新型インフル感染872人に－4人目の死者も＝インドネシア

インドネシア保健省は17日、国内の新型インフルエンザ感染者が872人に達したと発表しました。

12日に15人、14日に16人、16日に18人が確認され、16日に確認されたうち1人は死亡しており、新型インフルエンザによる国内の死者数は4人となっています。

◎パキスタンで初の新型インフル

パキスタン保健省は10日、同国初となる新型インフルエンザ感染者を確認したと発表しました。国立衛生研究所でウィルスを検出された患者の容体は安定しているとのこと。

◎新型インフル死者192人に＝ブラジル

ブラジルのテンポラン保健相は11日、新型インフルエンザによる同国の死者数が192人に達したことを明らかにしました。一国の犠牲者数としては、米国、アルゼンチンに次いで世界3番目となります。

◎新型インフル死者、推計337人に＝アルゼンチン

6日付のアルゼンチン紙ラ・ナシオンによると、同国保健省は5日、新型インフルエンザの死者数が337人に達し、そのうち53%がもともとは健康体の人だったと発表しました。

死者が最も多かったのはサンタフェ市の83人で、首都ブエノスアイレスは27人でした。また、新型インフルエンザによる死亡が疑われている死者が402人いました。8月1日までに同国内におけるインフルエンザの患者数は76万2,711人に達しており、同省ではその93%が新型インフルエンザだと推測しています。

◎新型インフルで初の死者＝仏とレバノン

DPA通信によると、フランスの国立公衆衛生監視研究所は30日、新型インフルエンザに感染した14歳の少女が死亡したと発表しました。

一方、ロイター通信によると、レバノンでも同日、新型インフルエンザで30歳の男性が死亡しましたが、いずれも新型インフルエンザによる死者が出たのは初めてです。

日本興亜保険グループのリスクコンサルティングサービス

日本興亜保険グループのリスクコンサルティング専門会社であるエヌ・ケイ・リスクコンサルティング株式会社 (<http://www.nipponkoa-nkrc.co.jp>) は、企業のリスクマネジメントに関する各種の情報提供サービスなどを実施しています。詳しくは弊社営業社員までお問い合わせ下さい。

新型インフルエンザ（ブタ由来 A/H1N1）関連リンク集（状況監視用）

掲載内容（定義や対応方法など）は、変更・修正される可能性がありますので、常に最新情報入手されることをお奨めします。

知りたい項目	URL
WHO や日本が定義している発生段階において、現在がどの段階かを知りたい	http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/index.html (厚生労働省より。画面の一番右側の上部をご覧ください。)
日本政府の最新の対応状況を知りたい	http://www.kantei.go.jp/jp/kikikanri/flu/swineflu/index.html (首相官邸より) *厚生労働省や検疫所、農林水産省、外務省などが発信している関連情報へもリンクしています。なお、厚生労働省は、実務的な対応等に関する自治体等への事務連絡を以下のサイトで公表しており、参考になります。 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/info_local.html
国内の確定症例数を知りたい	7月24日までは以下の公表様式で症例数が日々更新されていました。 http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/houdou/2009/07/dl/infuh0724-05.pdf (厚生労働省の新型インフルエンザに関する報道発表サイトより) しかし、7月25日以降は、患者の全数把握をとりやめ、以下(8月12日公表分)の公表様式で週1回ペースの公表に変化しています。 http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/houdou/2009/08/dl/infuh0812-01.pdf なお、世界の確定症例数については以下のWHOのサイトやそれを翻訳した国立感染症研究所のサイトが参考になります。 http://www.who.int/csr/disease/swineflu/updates/en/index.html (WHO(世界保健機関)より) http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/index.html (国立感染症研究所より。ページ右下の「世界の報告数」をクリック)
これまでの確定症例の分析状況を知りたい	「新型インフルエンザ確定患者の疫学情報 の中間取りまとめについて」(7月29日、厚生労働省) http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/houdou/2009/07/dl/infuh0729-02.pdf 「大阪府、神戸市における新型インフルエンザの臨床像(第2報)」(6月10日、厚生労働省) http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/2009/06/0612-01.html また、全国保健所長会では、以下のサイトで「新型インフルエンザについての専門家のご意見」を掲載しています。 http://www.phcd.jp/shiryo/shin_influ.html
症例(疑似症患者なども含む)の定義を知りたい	現時点では以下の7月22日版が最新です。この別紙3にあるように、発生からこれまでに数度の見直しが行われています。 http://www.mhlw.go.jp/za/0729/d26/d26-02.pdf
「新型インフルエンザに関するQ&A」を見たい	http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/info_qa.html (厚生労働省より)
地域の相談センターを知りたい	http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/090430-02.html (都道府県の新型インフルエンザ相談窓口に関する厚生労働省情報)
渡航危険情報を知りたい/各国にある日本国大使館の情報を知りたい	http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/sars.asp (外務省・海外安全センターより) *このページの「5.(2)」に在外公館へのリンクボタンがあります。
インフルエンザなどの感染症の発生動向を調査した資料が見たい	国立感染症研究所では以下のサイトで、「感染症週報」を公開しています。 http://idsc.nih.gov/idwr/pdf-j.html *その他、国立感染症研究所「インフルエンザ流行レベルマップ」はこちら↓ https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/index.html
インフルエンザ様疾患発生状況(学校欠席数)を知りたい	http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/infreport/report.html (国立感染症研究所より) http://www.mext.go.jp/a_menu/influtaisaku/syousai/1266888.htm (文部科学省より)